

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定（試行事業）  
試行事業病院総合医養成プログラム 年次報告書

2014年 7月 28日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会  
理事長 殿

以下に記載した内容で、貴学会の試行事業における病院総合医養成プログラムとして認定を更新していただけますよう申請いたします。

プログラム責任者署名（自署）



<b>1. プログラム名称</b>			
名古屋第二赤十字病院 総合内科 病院総合医養成プログラム			
<b>2. プログラム責任者</b>			
プログラム責任者氏名	野口善令	学会会員番号	
所属・役職	名古屋第二赤十字病院 副院長、第一総合内科部長		
所在地・連絡先	住所 〒466-8650 名古屋市昭和区妙見町 2-9 電話 052-832-1121 FAX 052-832-1130 E-mail yoshinog2006@yahoo.co.jp		
連絡担当者氏名*・役職	横江正道（第二総合内科部長）		*プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載
連絡先	電話 052-832-1121 FAX 052-832-1130 E-mail yokoe@nagoya2.jrc.or.jp		
<b>3. 最近1年間のプログラムの概要</b>			
<p>・アピールポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年度に 3 名、平成 26 年度には 2 名の後期研修医を採用し、総勢 11 名の大所帯となった。5～8 年目の指導医スタッフ、初期研修医とチームを組んでの屋根瓦研修が可能となっている。（しかし、当プログラムに該当する内科学会総合内科専門医資格を持つものがないため、研修対象者はいない。）</li> <li>・Morning Report と Case Conference が毎日行われており、診療上の悩みに対しリアルタイムに意見を述べ合い、メンバー全員で考えていく体制を構築している。</li> <li>・外来診療では、週に 1 単位の枠を外来担当医として担当し、初診ならびに予約患者を診療している。外来患者には不明熱、浮腫、体重減少、倦怠感、その他医学的カテゴリーに落とし込みにくい訴えなどが多く、外来レベルでも診断が難しい症例に対する診断推論のトレーニングができる。退院後の患者のフォローアップを行うことも患者を継続的に診療するという視点からも重要な経験を行うことができる。</li> <li>・これらの体制により、①相談しやすく充実したフィードバックを受けられる研修の場を作る ②指導医により良い教育を受けながら自らも優秀な研修医を教えることで教える能力を身につける ③優秀な同僚と良い雰囲気の中で切磋琢磨できる場を構築している。</li> <li>・総合内科での入院診療を通して、尿路感染症、誤嚥性肺炎、敗血症、敗血症性ショック、感染性心内膜炎、アナフィラキシーショック、関節リウマチ、急性椎体炎・椎間板炎、結核性腹膜炎、血管炎、Churg-Strauss 症候群など、多彩な内科疾患を経験することができる。</li> <li>・EBM 抄読会では、ただ英語の論文を輪読するのではなく経験症例から出てきた疑問をもとに、PICO の形成、文献検索、批判的吟味など、EBM のステップに則った手順で検討を行い、妥当なエビデンスかの判断と自分の症例に適用できるかどうかについて深い考察をする経験ができる。</li> <li>・自分の活動が、患者・他の職員・後輩の役に立っていることが成果として実感できる場や機会を作ること、高い満足度を達成できるような配慮をしている。</li> </ul>			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<b>4. 過去2年間の実績</b>		
2013年度	新規研修開始者数	0名
	研修修了者数	0名
2014年度	新規研修開始者数	0名
	研修修了者数	0名

<b>5. 現在のプログラム研修者該当者数 (研修休止中の者を含む)</b>							
1年目	0名	2年目	0名	3年目	0名	4年目	0名

<b>6. プログラムにおける指導医</b> 主たる施設における指導医以外の、関連病院の指導医は氏名の下に施設名を記載			
氏名	卒業年	専門分野・資格	専門分野・資格
野口善令 名古屋第二赤十字病院	昭和57年	日本内科学会内科専門医	プライマリ・ケア学会専門医
		米国内科専門医	
横江正道 名古屋第二赤十字病院	平成8年	日本内科学会内科専門医	プライマリ・ケア学会専門医
		日本救急医学会専門医	日本消化器病学会専門医

<b>7. 施設・診療科診療実績概要</b>			
病床数	812床 (内総合診療部門定床 14床)		
総合診療部門外来患者実績	初診 約	60人/月	再診 約 80人/月
総合診療部門入院患者実績	平均 約	33人/月	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

8. 診療実績 研修者1人平均経験症例		
急性期一般病床入院	約	82 症例 (後期研修医実績)
集中治療室 (ICU)・HCU 入院症例	約	22 症例 (後期研修医実績)
外来継続診療症例	約	76 症例 (後期研修医実績)
看取り症例	約	9 症例 (後期研修医実績)
委員会活動実践事例	約	10 症例 (後期研修医実績)
教育実践事例	約	17 症例 (後期研修医実績)
研究実践事例	約	4 症例 (後期研修医実績)
9. 診療実績 研修者一人平均経験症例 領域別		
症例数不明の場合は、おおよその割合を記載してください (入院患者のみ、1年間)		
研修領域	症例数もしくは割合	主な疾患名
心疾患系	約 4 症例	感染性心内膜炎
	約 3.8%	大動脈炎
呼吸器系	約 9 症例	肺炎 (市中肺炎・誤嚥性肺炎)
	約 8.7%	肺結核、インフルエンザ
消化器系	約 9 症例	急性胆管炎、肝膿瘍・転移性肝がん
	約 8.7%	クローン病、消化管出血、感染性腸炎
代謝内分泌・血管系	約 3 症例	副腎不全、褐色細胞腫
	約 2.9%	結節性多発動脈炎
神経系	約 4 症例	急性硬膜下血腫、脳梗塞
	約 3.8%	脳出血後遺症
腎泌尿器科系	約 23 症例	急性腎盂腎炎、腎膿瘍
	約 22.1%	前立腺炎、前立腺肥大症
リウマチ性・筋骨格系	約 11 症例	関節リウマチ、腸腰筋膿瘍・椎体炎
	約 10.6%	偽痛風、破裂骨折、大腿骨頸部骨折
皮膚	約 1 症例	带状疱疹
	約 1.0%	
耳鼻咽喉科	約 2 症例	ウイルス感染症
	約 1.9%	上気道炎
その他	約 38 症例	敗血症・敗血症性ショック、眼内炎
	約 36.5%	アナフィラキシー、血球貪食症候群など

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p><b>10. 研修者の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、具体的に）</b></p> <p>プログラム1年目、2年目の各行動目標（SB0）を指導医が5段階の評価尺度で評価する。 その結果、一定の基準を満たしていれば研修終了認定とする。</p>
<p><b>11. プログラムの質の向上・維持の方法</b></p> <p>随時、修了生からの意見のフィードバックを行う。 地域医療研修を医師不足病院への支援の一環として導入している。</p>
<p>その他、お気づきの点やご意見等ありましたら下記にお書きください</p> <p>臓器専門の内科が複数ある総合病院に設置した総合内科として Hospitalist の養成を主たる目的としてプログラムを展開し、概ね良好に人財育成を行うことができている。 近隣の診療所からの紹介も多くなっており、信頼が向上していると考えます。</p> <p>ただし、内科専門医試験合格者が、まだ若手医師の中に不在であり、現在、このプログラムに該当できるものが不在である。</p>